

## 令和3年度 法人 事業報告

令和3年度は、当法人の理念を根幹に、今出来る事は何か。という視点を持ち、感染症対策の予防・蔓延防止策を講じた上で必要な事業運営を行った

今後に向けて、事業運営を推し進めていく中で、内部体制の強化や部門間の協力体制が重要であることを再認識した。2025年の次の未来、2040年、現役世代1.5人に対して高齢者1人になると想定される社会構造の変化を見据えた医療・介護のあり方をめぐる議論が本格化している。介護の担い手不足、地域間格差、需要の拡大・多様化等々といった問題が叫ばれ、法人を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続くと予想される。人と先端技術が共生し、一人ひとりの生き方を共に支える次世代ケアの実現に向けて、当法人の理念を根幹に、職場環境改善・業務の効率化を推し進めていく

### 【理念】

みつめあう目と目 つなぎあう手と手 ふれあう心と心 人と人との絆を大切に

### 【年間目標】

- ①感染症対策の徹底
- ②接遇意識向上
- ③地域とともに歩む施設づくり
- ④外国人人材の活用
- ⑤職員の働きがいのある職場づくり

### 【実践報告】

#### ① 感染症対策の徹底

- ・新型コロナウイルスに感染した場合、重症化リスクが高い高齢者に対する接触を伴うサービスであるという特徴を職員に周知徹底する。スタンダードプリコーションの実施・環境管理（適切な温度・湿度の調整）・勤務時間だけではなく家庭での過ごし方も含めた職員の健康管理の徹底等々の感染症対策を行いつつ、必要なサービス提供を行った
- ・国の感染症動向を注視し、施設内感染症対策マニュアルを随時見直し、職員一丸となって、対策に取り組んだ
- ・ノロウイルス感染事例 0件、インフルエンザ感染事例 0件  
新型コロナウイルス感染事例 49件（職員17件 利用者32件）  
特養にてクラスター発生。今回の事例を踏まえて策定済みBCPの見直しを行った

#### ② 接遇意識向上

- ・各部署、基本的な行動基準は概ね実施出来ている。業務多忙な時や夜勤等の精神的に負荷が生じる場面で利用者への対応や声掛けに丁寧さが欠ける傾向にある。状況解決改善の為に虐待防止委員会が中心となって各部署での目標・行動計画を作成した。年度末に評価を実施。取り組み以前と比べ、職員の意識改善を図る事が出来た。また、外部講師を招いてのマナー研修を2回実施した。参加職員からも好評であったので、次年度以降についても継続して実施していく

③ 地域とともに歩む施設づくり

- ・事業運営していく中で、地域におけるセーフティゾーンとしての役割は果たした。しかし、地域における公益的な取り組みに関しては、積極的に取り組む事が出来なかった。ほっとかへんネット垂水（ヴェルデ名谷・本多間地域福祉センター区域）・東垂水地域の夏祭りや文化祭も開催中止となった為、活動に参加する事が出来なかった

現場での実習生の受入に関しては、感染症対策を十分に行った上で受入れを行った。（デイ塩屋2名・特養5名）

今後もコロナ感染症動向に注視しながら、地域貢献活動に取り組んで行く。

④ 外国人介護人材の活用

コロナの影響により、受入が延期となっていた EPA 介護福祉士候補者を新たに6名受け入れた。（配属部署：特養1名・デイ塩屋1名・ケア2名・GH2名）

年度途中でのリタイヤ者は2名であった。（令和1年度事業、特養にて受け入れを行っていた2名。日本語学習・シフト調整等本人の要望を聴き取りながら、親身に関わっていたが、夜勤業務は体力的にしんどいので行いたくない・ホームシック等々の理由が原因でリタイヤとなる

年度末時点での外国人スタッフ受入状況。特養2名・デイ1名・GH2名・ケア3名。

次年度以降も、雇用情勢等勘案しながら必要に応じて採用していく

⑤ 職員の働きがいのある職場づくり

- ・ 職員の離職・他法人への流出を防ぐ為に介護職員処遇支援手当を創設、直接介護・看護に携わる職員のベースアップを行った
- ・ 4月の介護報酬改定において、無資格の介護職員に認知症介護基礎研修の受講が義務付けられる事となった。経過措置の期間ではあるが、無資格者39名の内、年度末時点で29名受講完了。日本語の習熟度が浅く未受講となっている EPA スタッフや新規採用者に関しては、本人の能力等見極めながら計画的に推し進めていく
- ・ 風通しの良い職場とする為、部署内で困っている事をグーグルフォームでアンケートを作成し、課題解決を図った

【苦情受付】 0件